

2024（令和6）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和6年7月12日（金）午後6時00分～
- 会 場 音別町コミュニティセンター 研修室1・2・3
- 出席者 11人

【市長より説明（別途資料参照）】

- （1）都心部のにぎわいづくりについて
- （2）災害時の避難所について
- （3）音別地区の話題について

●質疑応答

【参加者A】

音別の避難タワーについてのお願いです。

建設予定地の隣の駐車場に街灯が2系統ありますが点かない状況で、遅く帰る人がいたりすると真っ暗でとても足元が危険な状況です。現状の照明や街灯などをそのまま使う予定であれば改修していただきたい。

【音別町行政センター長】

現状、2系統が点かないことは確認できていないですが、これは避難タワーとは別に音別町行政センターで調査して、対応できるかどうかも含めて確認します。

【市長】

今は場所を示せるだけで具体的なところはまだですが、当然そういった課題は解決していかなければいけないと思っていますので、そこは進めていく中で、いろいろとご意見を頂きながら、取り組んでいきたいと思っています。

【参加者B】

釧路市のホームページを見ますと、自分の家がどのくらい浸水するのか具体的に分かるように作っていただきましたけれども、1メートル以上浸水する場所に住んでいる人が自覚しているのか、ぜひ役所でも周知・調査していただけるようお願いします。特に診療所は50センチ位浸水すると医療器具は全部使えなくなりますし、寝たきりの患者さんはベッドごと沈みますので亡くなる確率が非常に高いと思います。避難計画がどうなっているか教えてください。

【音別診療所事務長】

診療所の避難計画ですが、洪水の場合、音別町コミュニティセンターが浸水せず、避難場所になりますので、こちらのほうに避難する計画になっております。

【参加者B】

大雨が降って洪水になるのが気温の下がった明け方から深夜にかけてだった時、寝たきりの患者さんを運ぶのは、大雨降っている中ではまず無理ではない

でしょうか。もう一つは、ここに運んでも医療器具が何もないです。急に体調が悪くなったときにどうやって治療ができるのですか。血圧計も点滴も酸素も吸入ありません。ベッド自体もないです。ただ見ただけです。裁判になって訴えられると多分負けると思います。それで提案ですが、向いに特養がありますけども、ベッドにブルーシートを被せてベッドごと運ぶのに、まだエレベーターは動くでしょうから1人10分か15分で済みます。夜勤の看護師さん2人しかいませんし、救急車が1台しかないのに、市内の方に出払っていたら出せる車もありません。特養であれば酸素もありますし吸入もあります。ある程度の医療器具があります。裁判になったとき、コミュニティセンターに運ぶと酸素や血圧計がないのに、なぜそっちを選択しなかったのかということになると思います。民間ですので予め契約しておかないとまずいと思います。その辺は行政と特養で話し合いをしてぜひやってください。

【音別診療所事務長】

診療所にも、携帯用の酸素ボンベなど動かせるようなものを備えてありますので、診療所とコミュニティセンターの距離的にいけば、もし寝たきりの人でしたらベッドごと運ぶだとかそういうことも想定しています。

【参加者B】

どうやってベッドごと運ぶのですか。

【音別診療所事務長】

ベッドにキャスターがついています。

【参加者B】

あそこから大雨が降っている中、真夜中にですか。

【音別診療所事務長】

時間帯は分かりません。

【参加者B】

そこも想定しなければいけないです。そうでなければ隣の特養に運んだ方がよっぽど合理的です。

【音別診療所事務長】

距離的な問題ということでしょうか。

【参加者B】

では、実際何分かかかるか実験してみてください。

次に、車椅子を載せる車がないです。ストレッチャーで寝たきりの老人を運ぶ車もありません。助手席が回転して車椅子から助手席に移る車はあります。そのサービスが音別町内だけで、釧路まで行けないです。ですから、隣の人に頼んで乗せてもらうしかありません。釧路バスのアクセスが全然ないです。これはずっと言っているのですけれども、改善されません。この前、音別の地域医療の懇談会がありましたが、市から来た係の方が、阿寒町は住民からそのような要請があったが、音別町からはそのような要請はなかったとの話でした。要請のあるなしで阿寒町と音別町を区別することはとんでもないことで命に関わることであるので改善していただきたい。特養と共同して運搬すると風の噂で聞きましたが、特養でやるにしても特養の車は頻繁に出動していきなくなります。そのとき特養と市民の使い勝手のどちらを優先するのかを明確にしてください。

たい。ですから診療所で入院している患者さんは僕らの診療所に来られないです。往診のリハビリサービスは、そのサービスを受けるために月1回釧路の整形外科を受診しなければいけないのでアクセスできなければリハビリを受けられないです。これは住民が黙っていたらやらないのは問題ではないのではないのでしょうか。大至急これを改善してください。

先ほど言いましたけども、車椅子や寝たきりの住民の避難です。どうやって誰がやるのかという研修が全然なされていません。同時に、災害時の洪水・津波の際はどうか具体的にやっていただきたい。例えば歩行困難ぐらいであれば、玄関先に出てくれば、車で通りかかった人が乗せるだとか、住民同士で助け合う。本当に歩けなくて車椅子が必要な方は、車椅子を乗せる車で移動するとなると特養に任せるのは問題になってきますのでそのあたりも含めて検討していただきたいと思います。

あと診療所にリハビリがないです。例えば脳梗塞で、釧路の脳外に入院してリハビリし、3か月ぐらいかけて戻ってきます。近くにリハビリがないものですから、また歩けなくなります。食べられなくなるとし、飲めなくなり、誤嚥性肺炎を起こします。そしてまたもう一回脳梗塞を起こす。実際見えています。ですから、ぜひリハビリを作っていただきたい。先ほどの保健センターの会議では、事務長が1,000万円かかるからできないと言いますがお金の問題ではないと思います。リハビリの僕の知り合いに聞いたら多くても200~300万円できると聞きました。どうして1,000万円もかかるのでしょうか。もし1,000万円かかるというのであれば、市橋建設から寄贈された1,000万円があります。ぜひそっちに使っていただければ会長も喜んでくれると思いますので検討してください。

もう一つは小学校と中学校が合体して、義務教育学校になりますけれど、もしそこに入学してくる子どもがゼロになった場合はすぐに閉校しますか。

【市長】

子どもの教育環境、これは我々の責務であります。

ゼロになったらではなく、子供がいる間しっかり提供するのが僕らの義務でありゼロになったときどうするかではなく子供がいる以上、どんな形でもしっかり提供するのが僕らの義務だと捉えています。

【参加者B】

例えば、娘が離婚して子どもを連れて帰ってきたとき、来週から小学校に入るとなれば開校してくれるということですか。北海道のいろいろな地域で閉校になっていますがバス通学ができるから閉校になります。音別から通うことは出来ません。

【市長】

基本的に学校の基準の中で、子ども達にしっかりとした教育環境を保障することはある意味責務ですから、しっかり対応することになっていまして、閉校するというのがどういう意味なのかわかりません。

【参加者B】

子供が2、3年いなくなったら閉校になりますよね。

【市長】

そうならないようにしていこうと私どもはずっと取り組んでいます。先ほどの産業政策を行っているのも、次の世代がこのまちの中で、いろいろなことを行っていくためです。農業というものを強くすることや、林業の取組などを徹底的に頑張っているところですので、そのような環境ができるとは私は思っていません。ゼロになって閉校するなんてことにはならないと考えています。

【参加者B】

分かりました。ありがとうございます。子どもが少なく、増やすためにいろいろ努力されていることは分かりました。

子育て環境を良くしていただきたい。特に音別地域や阿寒町の徹別などの周辺です。鶴居村がやっているように子供の100円バスをやって欲しいです。市長選挙の大きな良い公約になると思います。例えば、釧路から音別、釧路から阿寒湖畔までの100円バスを子ども達だけに提供する。そうすると子ども達がころみまでバスを使って釧路から100円で来られます。ころみを使ってくれる釧路市内の子ども達がたくさん増えますので要望ということで市長をお願いします。

【市長】

子育て環境を良くしたから、人口が増えるとは思っていません。みんなに冷たいと言われますけれど、政策で子育て環境というのは、まずベースは働いて稼げる環境をつくるのが何よりも優先だと思っています。そして働く環境をしっかり支えていくために、必要な子育て環境をつくっていくという言い方を一貫してさせていただいております。例えば、この少子化になってきている状況の中でいうと、もちろん子どもが少ないと言われていますが、1番ベースになっているのは、結婚などこういったところです。結婚したご家庭の中で生まれている子供の数は、ほとんど2人に近いです。特殊合計出生率といって一生の間に何人のお子さんを生むかが1.3と少なくなっていますけれど、結婚したご家庭では1.9を超えているわけです。では、どうして人口が減少するのかについては、実は結婚してないからです。社会的な中でも昔は給料がずっと上がっていくことが大前提でしたから、見通しがなくても様々なアプローチがかけられました。しかしいろいろなところで低所得の問題があります。例えば社会的な問題ですが、非正規として安く、全く給料上がらないような状況で将来展望はなかなか築けないということです。こういったものが最大の少子化の問題だと言われているわけでありまして、何とか稼げるようになったときに、様々な課題が消えていくため、この環境をつくっていくことが、地域のポテンシャルを活かすことと同じことだと思っています。これが地域づくりだと思っていますので、そういった順番で物事を進めていこうと考えています。

【参加者B】

今のご意見はもっともだと思います。1つ付け加えると女性の方の働く場所の確保です。女性の働く場所があって、旦那さんと2人で稼げば一軒家が建ちます。そして、子どもが生まれます。ですから、お父さんは夜明けとともに弁当を持って外に働きに出る。女性は子育てもあります。外でお父さんもお母さ

んも一緒になって働いてようやく家が建つ。お母さんが外に出ると子どもの教育環境が悪くなります。あと母子家庭だと土曜日曜も働くことになります。そうすると、体育館に行きたくてもなかなか行けません。ですので、そういう方の為にも100円バスをやっていただきたい。あと、お聞きしたいのですが、自宅待機の精神障がい者の入所希望者は、釧路市に何人くらいいるのか調べてください。

【市長】

精神科の新規の受付に時間がかかっているところで、マックスで4か月待ちがございました。今の状況は3か月です。

【参加者B】

障がい者手帳から人数はわかりませんか。

【保健福祉課長】

釧路市内全体の数字になりますと今手元に数字がありませんので、後日お調べしてご連絡します。

【参加者B】

日赤もそうですけど、精神科の病棟がなくなって開業医の先生もいないので、精神疾患の方が大変な思いをしています。一つは、グループホーム施設を充実することで、精神科の先生の仕事を減らせます。精神科に入院していた男の子が音別学園に入ったこともあります。これから国は、音別学園みたいな大きな施設をつくらせる方向ではないので、グループホームの数を増やすにも全部の数がわからないと何も動けないです。釧路市としてもグループホームに補助金とかを出してください。釧路市の看護学校も少し危ないという話を聞いておりまして、そして阿寒町のショートステイの施設は一時期受付困難な状態になりました。その影響で、音別の特養の職員が阿寒湖と音別の間を往復しています。冬は事故の可能性もあります。女性の職場を増やすためにも職業訓練学校など女性をターゲットにしているものを釧路市で重点的にやっていただきたいと思います。音別の特養もぎりぎりの人数でやっております。音別学園も非常に人数が少なく、ぎりぎりでやっています。危機的状況だと思いますのでよろしくお願いします。

【市長】

基本的に地域の医療体制になりますと、市役所と医師会、あとは保健所も入りながら、地域医療について定期的にどのような形をとるか状況を踏まえながらお話ししているところでございます。地域医療という大きい枠組みで、釧路全体という形の中で医師会や保健所と状況等はいろいろとずっとお話しして、全体の中で進めながら相談をしながら行っているというのが、釧路市全体に通ずる医療体制の取組方になっております。そういった中で、阿寒、音別、阿寒湖畔も入ってくるかと思いますが、どのような手法を取れるのか実態等を踏まえ取り組んでいるところです。いろいろな市の制度として、阿寒や音別で違いがあるところは、これを実現しながら進めていこうということで、先だって議会の中でもそういった方針をお示したところであります。そういった中で議論をしながら、進めていきたいと考えているところであります。

そして、人口減少というか、消滅可能性都市と言われるのは、ベースになる

のは全て女性の数です。他のものがカウントされていないのがシミュレーションの実態です。特に20歳から39歳までの女性が居れば良いというものでございます。ですから女性が必要だという意味ではないですが、女性も男性も地域の中で働きながら暮らすことにおいて希望を持てることが重要だと思っていますので、努めてまいりたいと思っています。

最後に訓練校は釧路でなかなか大変だと思います。私も昨年一昨年と専門学校や大学、短大も含め、実は釧路の看護学校もそうですが、今年は定員割れでございました。特に市立高等看護学院は30名の定員で、100%の国家試験の合格率を誇っていますが、今年は28名で定員割れになった驚きが一つありながら、あわせて、社会福祉、幼稚園、養護教諭の各専門学校を見ていくと、昨年まで50数名の定員だったところが、30名ぐらいに定員を減らしたにもかかわらずクリアできませんでした。非常に困難な状況になっています。この町でいろいろなことができる学校にも人をしっかり持ってくるのか、どのようにこの魅力を高めていくかが重要で、まさに、学校を作れば良いという時代では全くないです。これはまさに学校現場、教育委員会、道教委などとも連携を取っていきながら、この地域の中でしっかり機能を持つために働く方が必要なわけですので、こういったことも含めてしっかり取り組んでいきたいと考えております。先ほどご提言、ご提案を頂いたところでありますけど、この医療体制というのは地域の中で重要なことでありますので、いろいろと相談しながら進めてまいりたいと考えてございます。

【参加者A】

先ほど害獣被害の対策の説明で、防護柵や電気柵に補助を出すとありますけど、テレビを見ていたら「モンスターウルフ」が熊にも効果があると聞きました。もし釧路市内で導入するということが出てきた場合に補助など今後検討の対象になるのでしょうか。今までは鹿だけに効果があるような雰囲気でしたが、この間テレビで、熊にも効果があって熊が逃げたというニュースをやっていました。大きくは広まっていないと思いますが、費用対効果でどうなるかわかりませんが、今後出てくる可能性もあるので片隅に入れておいたほうが良いと思って質問いたしました。

【市長】

本当に効果があれば、こういった対策はやっていかなければいけないものだと思います。いろいろな情報を取りながら有効な手立てを進めてまいりたいと考えています。

【参加者C】

今日の資料を見る中で、「話題」という言葉を使っていますけども、この「話題」というよりは、行政として守りと攻めというか、基本的には人口がこれからまだまだ減少する中で、音別について具体的に言うとあと10年すれば1,000人を切る可能性がかなり高いと思いますので、どう地域を活性化するのでしょうか。それこそ少数精鋭のIT技術者あたりがどんどんこちらに進出して、セカンドハウスのいろいろな活躍していただければ人数が少なくても

少数精鋭でいけるかと思いますが、攻めと守りの仕切りについて掘り下げた意見交換をさせていただければと思っています。音別の高齢者が43%、釧路が36%です。2割ほどこちらのほうが高齢者の割合が高くて、人数は減ってきています。おまけに診療所が土日は休みと噂があり心配している中で、先ほど医療・介護・教育についても話がありましたけれども、もう少し具体的な方針を定期的に車座で開いていただきたいと思います。

それで感想を聞きたいと思いますがセンター長が4月に赴任されて3か月経過しています。このあたりの課題意識というのは当然前任者から引き継いでいると思いますが、センター長はこれからどういう思いで活性化するのかコメントを頂きたいと思います。

【音別町行政センター長】

4月から音別行政センター長として勤務しています。これまでは、内部管理が多く、産業という部分に携わることが全くなかったものですから、少し新鮮な気持ちで見ているような状況です。音別の1番の強みは林業や酪農であり、そこは非常に強みになっていると思っています。旧釧路市、旧阿寒町、旧音別町合併から音別の強みということで、共通してずっと続けている対策だと考えています。その中で、日本全体のことですけれども、地域は高齢化、人口減少がどうしても付いて回ります。これは日本全国の傾向ですので仕方ない中で、こういった強みを生かしていくかということ、やはり音別は林業酪農に特化するべきだろうと思っています。

今日、この懇談会の中でも、ご紹介しましたとおり、様々な対策を行っています。そういった中で行政ができることは、地域をどうすれば人に住んでいただけるかですとか、地域が守らなければならない伝統文化、これは踏も含めてです。そういったところは、行政がこういった知恵を出すかが考えどころと、この3か月で私は感じました。

【参加者C】

そういう感想をいただいただけでもありがたい話で、前任の方からは、そういう話も聞けないような状況でした。それで具体的には、憩いの森再整備については初耳で、津波センターについて行政センターは教えてくれなかったもので、本庁の防災危機管理課に電話したら、細かく5,200万円ですと教えてくれました。そんな状況もこれまでありました。それこそ本当に釧路市以上に音別は差し迫った課題がたくさんあると思っていますので、少し意見交換の場を1時間でも設けていただくような形で、もう少し風通しのよいようにしていただきたいです。ここでいろいろ議論すること良いですが、はっきり言って人件費や労働時間を考えた場合、今の話の内容からしたら相当社会的損失だと思います。医療の懇談会をやったと言いますが、これは特定のメンバーだけでやっているのか知りませんが、受益者の立場からすればそういった医療関係のどういう方向性を打ち出しているのでしょうか。行政が1番目的とする生命財産を守るということからすれば、当然私は聞く権利がありますけれども、もう少し風通しよくなるような方策をぜひ考えてほしいし、去年市長からもある程度車座を前向きに検討しようというようなコメントを頂いたと思います。地域協議会は、それぞれの老人会も、このたびの「そら」の廃止についても、老人会

の会長から一切資料の話もなく説明ありません。物事を最終的に決めるのであれば、「これはあくまで老人会で機関決定した内容で会長がお話しされているものです」などそこまで言わなければ、裁判所では勝てないと思います。

【音別町行政センター長】

私が来てから確かに旧釧路地区よりも、阿寒音別については、地域の広報というものは充実していて、これを使うのは有効だと思っております。その中の情報としてこういったものがあるのかというご意見かと思っておりますので、地域で行われたことについて情報提供する方向で調整していきたいと思っています。

それと、高齢者の検討会など、様々な各委員が集まって行うような中で検討されているという中身ですけれども、例えば先ほども話でありましたように、寝たきり移送サービスを少し拡充する検討をされていて、その中では今、利用されている方ですとか、利用されていないですけど登録されている方とかに、個別にもお話をするようにしておりますので、少しずつ広げていきたいと考えています。

【参加者C】

意見なんて全然ないです。要望もないです。ある人から言われて市政懇談会に初めて参加させてもらったので感想を話したいと思います。蝦名市長は昭和34年1月生まれで、僕が2月生まれです。同級生だと思いながら、藤村先生がSNSで釧路を盛り上げようということをやっていて、塾生なので社員3人で参加して釧路を盛り上げる協力をしているのですが、同年代だと「頑張っているなあ」、「応援したいなあ」と思いました。普段いろいろなイベントで顔を合わせますが、市長からいろいろなコメントを直に聞いたことで、直に聞いたほうが伝わると思いましたので、本当に遠く来ていただいてありがとうございます。片や蝦名市長は15万人の市のトップです。僕は1町内会の会長です。例えば音別だと、釧路市から見たら、1%の人口比率です。1%の人口比率の中のさらに小さな、町内会の会長です。蝦名市長が考えているような課題から見たら、僕の悩みなんか小さいと思いました。町内会に焼き肉やる場所がないと思っていますけど、モデル町内会として認定されている活動している町内会です。僕の悩みは小さいということが今分かったので、蝦名市長これからも応援していますし、釧路市のSNSの発信も率先してやり、同年代として応援したいので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。